

学校名：中央区立明石小学校

所在地：中央区明石町1-15

校長名：永井 勝巳

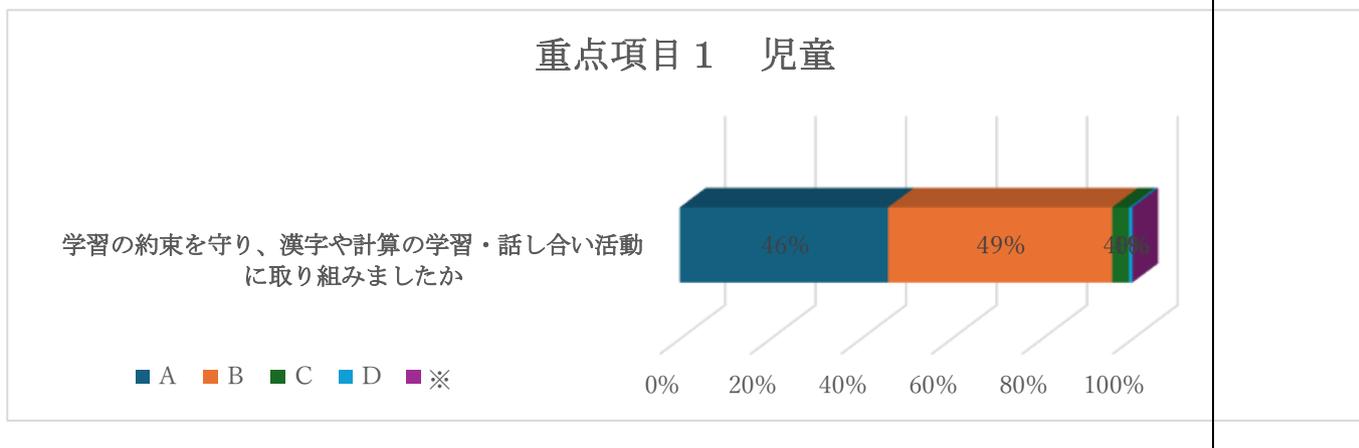
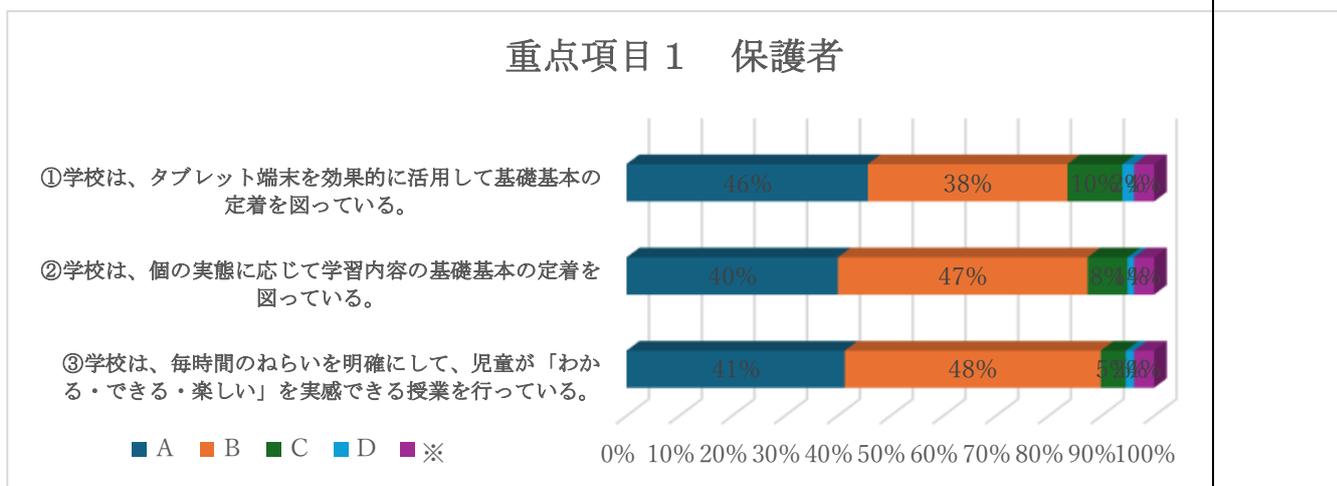
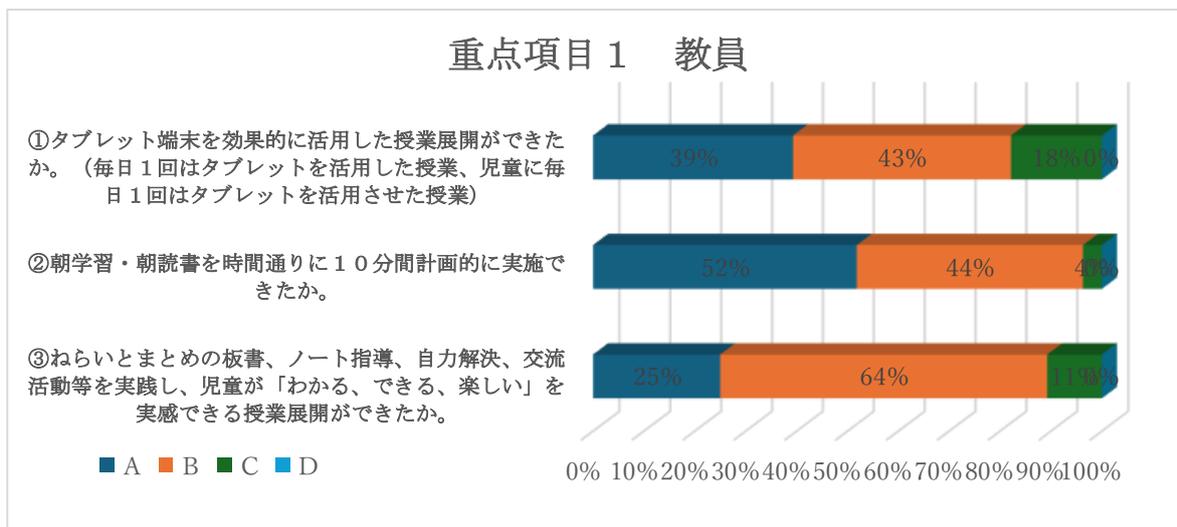
児童数：546人

学級数 21人

教員数32人

## 1 重点目標の達成状況及び、取組状況

### 重点目標 1



## 重点目標 1 <確かな学力の定着・向上>

①タブレット端末を効果的に活用した授業展開ができたか。(毎日1回はタブレットを活用した授業、児童に毎日1回はタブレットを活用させた授業)《教員》

①学校は、タブレット端末を効果的に活用して基礎基本の定着を図っている。

《保護者》

「教員の評価で「十分達成した・達成した」が82%と高い一方で、「改善を要する」が18%でやや課題が残った。保護者の評価も「十分達成した・達成した」が84%と良好だが、10%が「改善を要する」としている。

タブレット端末を活用した授業が日常化する中で、保護者からの評価は昨年度に比べて改善された。これは、教員間でのタブレット活用法の可視化と共有が効果を上げた結果と考えられる。今後も、教員向けの効果的なタブレット活用法を学ぶ研修を開催し、教育技術の向上を目指す。また、タブレット端末の効果的な活用をさらに推進していく。加えて、ホームページなどを活用し、保護者が学校でのタブレット活用の重要性を理解できるよう、情報発信を強化する。児童の学習の様子についても発信し、保護者により具体的なイメージをもってもらおうことを目指す。

②朝学習・朝読書を時間通りに10分間計画的に実施できたか。《教員》

②学校は、個の実態に応じて学習内容の基礎基本の定着を図っている。《保護者》

昨年度に比べ向上が見られ、教員の評価では「十分達成した・達成した」が96%と非常に高く、取り組みの定着が確認されている。また、保護者の評価も93%と良好であり、家庭においてもその効果が感じられている。朝の学習や読書を学年ごとに計画的に進め、時間を意識した落ち着いた活動が定着してきた結果と考えられる。今後は、学習環境を整えるだけでなく、学習の質を向上させるために、個別最適化された学習やテーマ別の活動を取り入れ、児童の興味を引き出す工夫を進めていく。また、算数においては、引き続き、習熟度別クラス編成や放課後補習教室(夕やけ教室)を計画的に実施し、個々の学習に応じた基礎基本の定着を図っている。さらに、タブレット端末のドリルソフトを活用し、基礎基本の定着をさらに進める指導を継続していく。

③ねらいとまとめの板書、ノート指導、自力解決、交流活動等を実践し、児童が「わかる、できる、楽しい」を実感できる授業展開ができたか。《教員》

③学校は、毎時間のねらいを明確にして、児童が「わかる・できる・楽しい」を実感できる授業を行っている。《保護者》

教員と保護者の「十分達成した・達成した」の評価がともに88%で、昨年度と変わらない結果となったが、「改善を要する」との回答が若干減少しており、さらなる質の向上が期待される。交流活動においては、対面でのやり取りとタブレット端末の活用を組み合わせることで、より充実した活動を実現するための解決策を模索していく。また、デジタルとアナログの両立を推進し、教育技術の向上を目指した授業研究を実施する。さらに、教員間での授業観察やフィードバックの機会を増やすことで、具体的な改善点を共有し、「わかる授業」「できる授業」「楽しい授業」を目指して研鑽に努めていく。

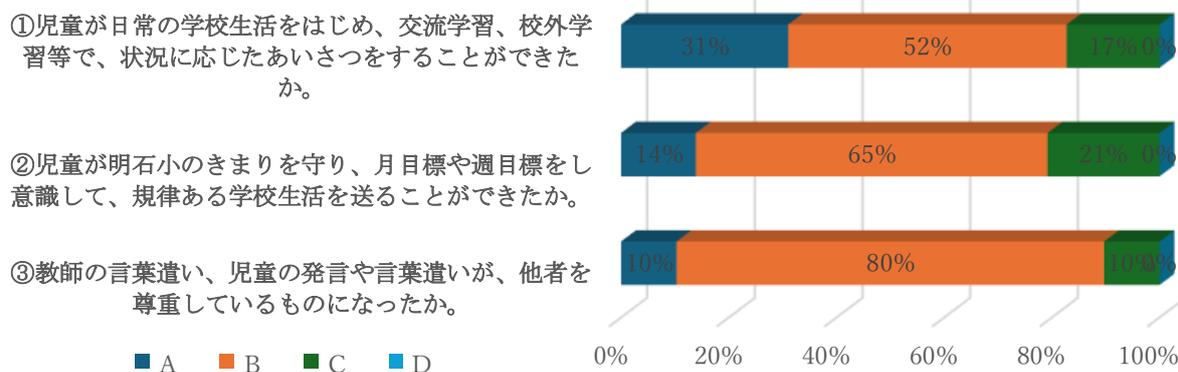
④学習の約束を守り、漢字や計算の学習・話し合い活動に取り組みましたか。

《児童》

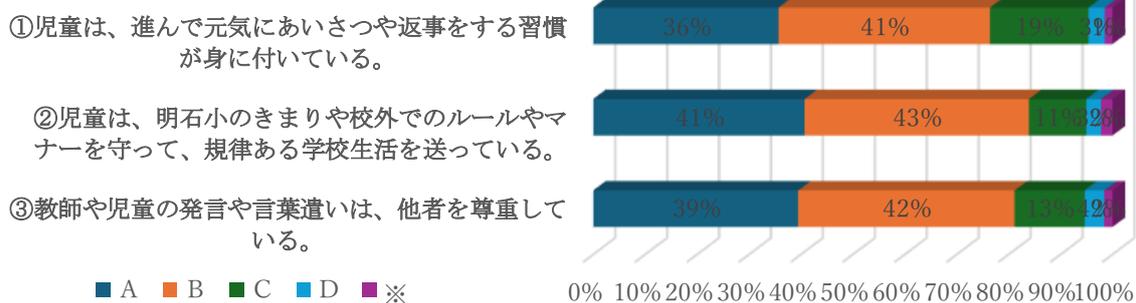
今年度、「よくできた・できた」と回答した児童が95%に達し、昨年度よりも改善が見られる結果となった。今後も学習意欲を維持し向上させる指導を継続していく。「よくできなかった・できなかった」と回答した児童が5%存在しており、全ての児童が積極的に学習に取り組めるよう、個別のフォローアップを徹底し、100%達成を目指す。そのために、授業中の発言や質問を促す声かけを行い、小テスト等による理解度の確認を行う。また、放課後の補習教室である「夕やけ教室」の活用を推進していく。さらに、家庭での学習支援についても保護者との連携を深め、児童が学ぶことの喜びを感じられる環境づくりに努める。

重点目標2

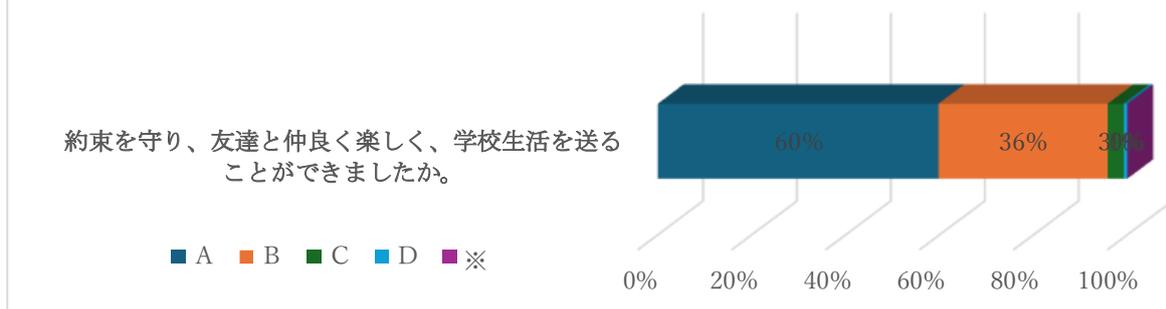
重点項目2 教員



重点項目2 保護者



## 重点項目 2 児童



### 重点目標 2 <豊かな心の育成>

①児童が日常の学校生活をはじめ、交流学习、校外学習等で、状況に応じたあいさつをすることができたか。《教員》

①児童は、進んで元気にあいさつや返事をする習慣が身に付いている。《保護者》

昨年度に比べて改善は見られるものの、教員の評価で「十分達成した・達成した」が83%と高い一方で、実際の行動への定着が必要であると考えられる。保護者の評価では77%が好意的であるが、教員と保護者の間で意識の差が見受けられる。学校の外で、保護者や地域の方に対する積極的な挨拶がまだ十分ではないと現状から考えられる。

このような状況を改善するため、学校全体で挨拶の意義を伝え、挨拶の習慣化に向けて粘り強い取り組みが必要である。また、挨拶の習慣化には家庭の協力も欠かせない。学校内で身につけた挨拶を実生活でも実践できるようにするため、あいさつ運動などの活動を通じて、挨拶の習慣化を目指し家庭への啓発も含めて、明石小学校全体で取り組んでいく。

②児童が明石小のきまりを守り、月目標や週目標を意識して、規律ある学校生活を送ることができたか。《教員》

②児童は、明石小のきまりや校外でのルールやマナーを守って、規律ある学校生活を送っている。《保護者》

「保護者の84%が「十分達成した・達成した」と評価したが、教員の評価は79%と課題が残る。児童には明石スタンダードと週目標を関連付け、学期末に達成を振り返らせる指導を継続している。また、委員会活動を通じて、児童自身がルールやマナーについて啓発ポスターを作成し掲示するなどの活動も行っている。今後も、ルールを守ることの意味や重要性について具体的に指導を行い、全校朝会や日常の生活、授業を通じて繰り返し指導を行うことで、児童の意識向上を図る。さらに、規律ある学校生活を促進し、児童がその意義を理解し、実際の行動に移せるように努めていく。

③教師の言葉遣い、児童の発言や言葉遣いが、他者を尊重しているものになったか。《教員》

③教師や児童の発言や言葉遣いは、他者を尊重している。《保護者》

「十分達成した・達成した」が教員90%・保護者81%のやや高い数値であった。日頃より、教員も児童も授業中の丁寧な言葉遣いを意識し指導してきた。日常の授業の様子から、意識の高まりが見られる。しかし、授業以外の休み時間などでは、言葉遣いが崩れることもある。場面に応じて言葉遣いを使い分けられているとも考えられる。教員も同様であるという認識のもと、率先して教員がどのような場面でも言葉遣いを意識し教師が率先して模範を示す。丁寧な言葉遣いの日常化に向けて、全校での一貫した取り組みを進め、言語環境の整備に努めていく。

④約束を守り、友達と仲良く楽しく、学校生活を送ることができましたか。

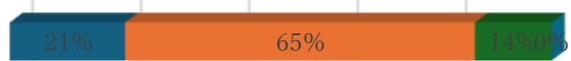
《児童》

「よくできた・できた」が、児童の96%と昨年度と同様、非常に高い数値であった。喜ばしいことであるが、この結果で満足するのではなく、継続できるよう指導を続けていく。また、6%の児童は「あまりできなかった・できなかった」と回答している結果を受けとめ、楽しく学校生活を送れていない原因は何なのかをしっかりと把握し細やかに対応することが必要である。そのためにも、アンケート調査、担任やスクールカウンセラーとの面談週間の機会を設定したり、教員間の公開授業や交換授業を行ったりして情報共有の機会を増やし、さらなる児童理解を深め、教員100%の子どもたちが楽しいと感じることのできる学校を目指していく。

### 重点目標3

#### 重点項目3 教員

①児童が長縄記録会や短縄教室、短縄旬間等にめあてをもって取り組み、日常的に運動に親しみ体力を向…



②児童が安全指導や安全学習を通して、安全な行動を意識して生活できたか。



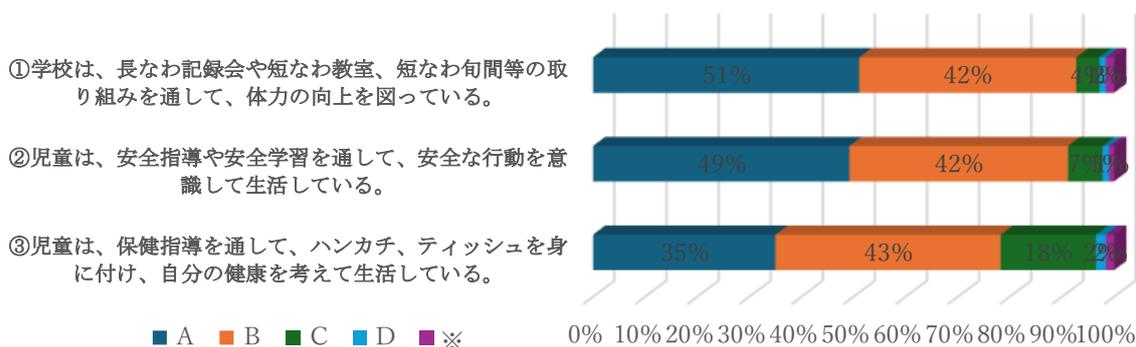
③児童が保健指導を通して、ハンカチ、ティッシュを身に付け、児童が自分の健康を考えて生活できたか。



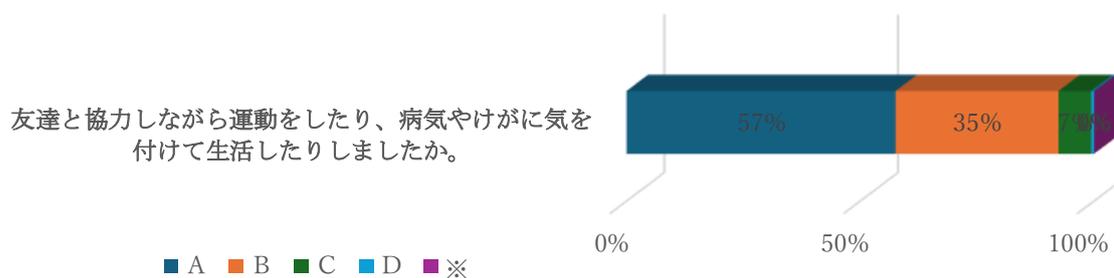
■ A ■ B ■ C ■ D

0% 20% 40% 60% 80% 100%

### 重点項目 3 保護者



### 重点項目 3 児童



## 重点目標 3 <健康・安全教育の充実>

①児童が長縄記録会や短縄教室、短縄旬間等にめあてをもって取り組み、日常的に運動に親しみ体力を向上させたか。《教員》

①学校は、長なわ記録会や短なわ教室、短なわ旬間等の取り組みを通して、体力の向上を図っている。《保護者》

昨年度より、「十分達成した」「達成した」と回答した割合が、教員で86%、保護者で93%と向上し、高い評価を得た。本校では、体育的活動の充実を図るため、定期的に長縄や短縄を用いた活動を行っている。期間中は特に縄跳びへの関心が高まり、児童は休み時間に積極的に取り組んだ。また、体力向上旬間では、授業内で持久走や持久力を高めるダンスを取り入れるなど、体力向上に向けた取り組みを実施した。さらに、委員会活動を通じて体力向上の推進に努めている。運動を日常的に行うための工夫を行い、期間外でも児童の関心を維持していく。今後も、授業とともに学校生活の様々な場面で継続的に体力向上につながる活動を工夫し積極的に行っていく。

②児童が安全指導や安全学習を通して、安全な行動を意識して生活できたか。

《教員》

②児童は、安全指導や安全学習を通して、安全な行動を意識して生活している。《保護者》

「十分達成した・達成した」が教員100%、保護者91%という高い数値を得た。学校では毎月、安全指導や避難訓練を確実に実施し、安全意識の向上に努めている。安全指導においては、安全指導日の朝に10分間、安全に関する問題を扱った動画や資料を用いて話し合いを行っている。また、朝の会・帰りの会や長期休業前に繰り返し安全について指導を行っている。避難訓練では、地震や火災、不審者侵入といった様々な状況を想定し、リアルな対応を学ぶ訓練を実施している。さらに、警察や企業などの外部機関と連携し、交通安全教室やセーフティー教室を開催した。今後も、全教職員が最新の防災知識を学び、災害・事故・事件がいつ発生するかわからないという意識をより強く持ち、常に安全な行動ができるように考えさせることが重要である。安全に関する知識や行動の指導を繰り返し行い、学習と指導を通じて安全に関する資質・能力の育成に努める。

③児童が保健指導を通して、ハンカチ、ティッシュを身に付け、児童が自分の健康を考えて生活できたか。《教員》

③児童は、保健指導を通して、ハンカチ、ティッシュを身に付け、自分の健康を考えて生活している。《保護者》

コロナ感染症の脅威が薄れたことで、感染症対策への意識が低下していることを感じている。「十分達成した・達成した」が教員79%・保護者78%のやや低い数値であった。校内では引き続き、基本的な感染症予防として手洗いをしっかりと指導しており、児童は手洗いをよく実践できているものの、ハンカチの所持率は低下しているように見受けられる。ハンカチやティッシュがランドセルにしまわれたまま、必要なときに使えないことがある。清潔なハンカチで手を拭けるように、学校でも児童に対してハンカチやティッシュを身に付ける習慣を指導し続ける。そのためには家庭の協力も不可欠であり、保護者への支援の依頼を継続的に行っていく。

④友達と協力しながら運動したり、病気やけがに気を付けて生活したりしましたか。《児童》

「よくできた・できた」と答えた児童が92%と、非常に高い数値となった。これは喜ばしい状況である。体育や休み時間の様子からも、児童が友達と仲良く過ごし、元気に体を動かして活動していることがうかがえる。しかし、現実にはけがなどで保健室を利用する児童が多く、実生活では様々なけがが発生しているのが現状である。安全な生活に関する行動規範の意識を促すため、児童自身が発信する形でポスターの作成や掲示が行われており、安全に対する意識は高まりつつある。しかし、さらに落ち着いた生活を送るための意識を高め、児童自らがけがを防ぎ、健康で安全な日常を習慣化する努力を継続していく。

## 2 重点目標以外の自己評価における達成状況及び達成のための取組状況

### 《家庭や地域との連携》

今年度は、これまでのような感染症対策を気にすることなく、通常の学校運営を行うことができた。学校公開では、3回すべて参加者の制限を設けず、地域の方々にも公開することができた。数年前に比べて児童数が増加しているため、校庭での体育学習発表会は奇数学年と偶数学年に分けて開催し、体育館での音楽会は学年別に行った。保護者や地域の方が学校を訪れる機会は限られているため、学校のホームページを通じて児童の学習や生活の様子を頻繁に発信している。「学校が行事や学校公開、ホームページを通じて、児童の学習の様子や生活が分かるようにしている」との設問に対し、「よく当てはまる・当てはまる」と回答した保護者の割合が89%に達した。今後も、児童の学習や生活が伝わるように、学校から積極的に情報を発信し、家庭や地域との連携を一層深めていく。

### 《ICT機器の活用》

「学校はICT機器を十分に活用しているか」という設問に対し、「十分達成した・達成した」と回答した保護者が78%に達した。しかし、「分からない」と回答した保護者も8%に上っており、一割弱の保護者が学校のICT活用状況を把握していない現状がある。このような状況に対して、学校としては更なる情報発信が必要であると考えている。

また、明石小学校では、令和6・7年度の中央区教育委員会研究指定校として、「未来を切り拓く児童の育成～教員のICT機器を活用した指導、働き方の工夫を通して～」を研究テーマに掲げ、授業実践を進めている。保護者や地域の方々に対して、教員がICT機器を用いて授業を日常的に行っていることを積極的に伝え、それにより来年度の研究成果として児童の学びの力が向上している姿を実感してもらえるよう努めていく。

## 3 今後の改善方策

タブレットを使用した学校評価アンケートの実施は今年で4回目を迎えた。昨年度と比較して、アンケートの回収率が向上し、58%であった。教員、保護者、地域が協力して子どもたちの教育を支えることで、子どもたちの健やかな成長を助長し、学校評価を教育活動に活かしていくためには、保護者にアンケートの重要性をしっかりと伝え、協力をお願いしたいと考えている。回収率向上のため、アンケート実施の周知方法についても再検討を行う予定である。今年度も明石小学校では「子どもがかがやき、保護者、地域、教職員がともに歩む学校」を目指して、教育活動を展開してきた。Google Classroomや学校ホームページを活用して、学校の様子を積極的に発信してきたが、さらに保護者の理解を深めるために、教育活動の公開や情報発信を一層進めていく。

\* 3月に各学校のホームページで公表していきます。